

都道府県名

宮城県

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	仙台市立上杉山中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4	3	15	29
生徒数	127	133	130	3	393	

研究の概要

1. 研究主題

自ら学び自ら考える力の育成をめざして
～新たな授業づくりと、授業に生かす評価の工夫～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

実施学年：全学年 重点教科：数学科
中学校は義務教育の最終段階であることから、生徒に基礎的・基本的内容を確実に身に付けさせる必要があるが、中学校段階では、教科により生徒の習熟の程度に差が生じやすい。特に、数学は習熟の程度に差がつきやすいといわれている。しかし、これまで、人的及び時間的な制約等から十分に生徒一人一人に応じた指導がなされてきたとは言い難く、学習内容の習熟の程度に応じたきめ細かな指導の充実を目的として重点教科を設定した。
なお、研究対象の教科は数学科を重点とするが、全教科で研究主題に呼応した実践を行っている。

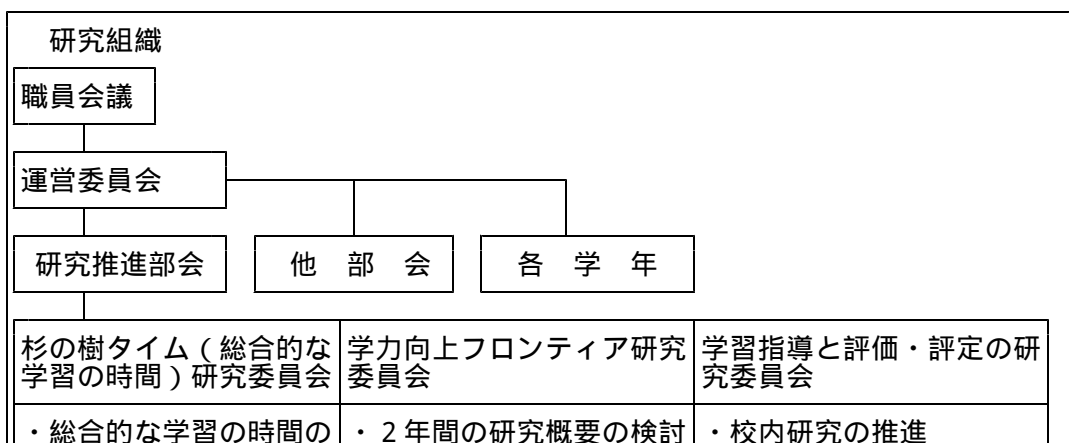
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 個に応じた指導や評価を工夫することで、生徒の自己理解を促し、目的意識や見通しを持った学習活動が進められるようにする。</p> <p>研究の見通し（研究の視点） 1 授業構想や具体的な実践を通し、どのような指導法やカリキュラムが「自ら学び自ら考える力」の伸長に有効であるかを探る。 2 生徒の学習成果を適切に把握し、指導に生かすためには、どのような評価活動が有効であるかを探る。</p> <p>研究の内容・方法 教科共通 1 各教科において、「研究テーマ」及び「具体的な手だて」を設定する。 2 「具体的な手だて」に基づいて実践する。 3 1学期終了後に成果や課題を検討し、2学期の計画を修正する。 4 指導案検討会、授業研究会を開催し、指導方法や評価方法等の有効性を検討する。 5 1年間を通した実践成果をまとめ、次年度へ向けての課題を検討する。</p> <p>数学科の取り組み 1 小・中連携について 現在までの状況は、「授業研究会、研修会の合同開催」の段階まで進めている。合同の授業研究会を4回、合同の研修会を2回開催した。 2 習熟度に応じたコース別学習の展開 (1) コースの分け方</p>
--------	--

	<p>全学年を学級ごとに、生徒の習熟度別に2コースに分けた。コース名は、「基礎充実コース」と「基礎発展コース」とした。コース選択については基本的に生徒及び保護者の希望とした。2学期から、1・2年生は2学級同時授業の3コースに分けた。コース名は、「基礎充実コース」「基礎定着コース」「基礎発展コース」とした。</p> <p>(2) 各コースの担当教師 コース固定とはせず、担当教師間で相談の上、適宜交代した。</p> <p>(3) 年度途中でのコースの変更 各章(領域)ごとに生徒及び保護者の希望により、コースの再編成を行った。 コース途中での変更は原則として認めないが、やむをえない場合には対応した。</p> <p>(4) 指導形態・内容 各章(領域)の初めにガイダンスを実施し、担当教師のTTで指導した後、コース別学習に移行した。 どのコースも進度は同じとし、使用するワークシートなどできるだけ共通のものを使用した。 コース独自のものとしては、基本課題に迫るプロセスや発展課題の扱いなどを工夫した。</p> <p>(5) 評価 定期考査、実力考査等は共通問題とする。難易度は、発展コースの生徒で90%以上の正答が見込まれるようにした。 判断基準も共通のものとする。基礎充実コースの生徒の達成目標レベルを明確にした。 自己評価を導入した。 ・自分の達成状況が把握できるもの。 ・その後の努力すべき点が具体的に把握できるもの。 * 各種調査等については、「学力把握のための学校としての取組」を参照。</p>
--	--

平成16年度	<p>テーマ 目的意識や見通しを持ち、試行しながら効果的な学習を進めることができる力を伸ばしたい。</p> <p>研究の見通し(研究の視点) 15年度と同様(予定)</p> <p>研究の内容・方法 15年度と同様(予定)</p>
--------	--

(3) 研究推進体制



全体計画 ・個人研究の全体計画 ・各学年計画の調整	・フロンティアスクールの 実践計画 ・関連事業の計画・実施	・各教科・領域の評価・評 定の調整と具体案の提示 ・通信票の検討
---------------------------------	-------------------------------------	--

教科全般としては、教科主任をメンバーとした「教科主任会」を定期的に開催し、研究の方向性の調整等を図った。
 数学科においては、他教科の教師も多数指導にあたるので、指導内容や方法等について、事前の打ち合わせをその都度細かくもち、スムーズな指導体制がとれるよう配慮した。

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

各教科の取り組みについて
 各教科において指導法、評価法の工夫が見られ、それぞれ成果をあげた。

国語：伝え合う力を育てる指導の工夫

- ・分かりやすく話すための留意点を意識する態度がうかがえるようになった。
- ・ほとんど生徒が、興味や意欲を持って毎時の授業に積極的に取り組むようになった。具体的には、授業中の発言が多くなり、その後の朗読にもつながっていた。

社会：社会的事象を多面的にとらえることのできる生徒の育成

- ・社会的事象を多面的多角的にとらえさせるため、様々な資料を用いて学ばせることができた。
- ・事象を比較検討させ、その因果関係から意味を考えさせることができた。

数学：数学科における基礎・基本の定着を図る指導の工夫

- ・基礎充実コースを選択している生徒は、安心して取り組むことができている。
- ・選択が適切な生徒にとっては、意欲的に学習できているようだ。
- ・1, 2学期の定期考査でも全体的に良好な結果が得られている。

理科：観察・実験を精選し、基礎・基本を身につけさせる指導と評価の工夫

- ・授業の重点が明確になるので、何をどうがんばればよいか生徒にも把握しやすくなり、意欲的に取り組む姿が多く見られるようになった。

英語：基礎・基本の定着を図り、表現力を高める指導法の工夫

- ・書く活動を通して、表現力を高めることができた。
- ・生徒の音読に対する意欲が高くなり、定着が図れるようになった。

音楽：和楽器で楽しむ

- ・リコーダーはソプラノリコーダーのみとし、アルトリコーダーは特に指導しない方向で進めた結果、生徒一人一人の技能（ソプラノリコーダー）を瞬時に把握できた。

美術：意欲的・主体的に取り組ませる指導と評価の工夫

- ・各学年で発達段階を考慮し、題材によって例示の方法やわかり易い指導方法を工夫したことで、スクラッチや自画像の表現に多様性や深まりが見られるようになった。

保健体育：自主的・自発的学習活動をより有効に高めるための指導と評価の工夫

- ・学習カードの提出が定着し、授業の形態を生徒が理解してきており、意欲的に取り組む生徒が増えた。

技術・家庭：一人一人が自ら課題を持ち意欲的に活動できるような指導法の工夫

- ・細かな学習の中で、工夫した題材を取り入れたところ概ね好感触を得ることができた。また、自己評価システムなどの導入にしても、かなり有用性を感じ、今後より効果的な活用法を探っていきたいと感じるものであった。

数学科の質問紙調査の結果（調査数：354名）

質問1 どんなことをもとにしてコースを選んでいきますか。（自由記述）

- ・コース選択にあたっては、ペーパーテストやワークシートの出来具合から判断している場合と、じっくり取り組みたい、応用的な課題に取り組みたいなど、コースの内容で判断している生徒がほとんどである。

質問2 積極的に授業に参加することができるようになりましたか。

- ア 積極的に参加できるようになった。 271名
- イ あまり変わらない。 94名
- ウ 積極的に参加できなくなった。 7名

質問3 授業内容がわかりやすく、理解しやすくなりましたか。

	ア わかりやすくなった。	192名
	イ あまり変わらない。	140名
	ウ わかりにくくなった。	24名
質問4	コース別学習を取り入れた授業は良いと思いますか。	
	ア 良いと思う。	192名
	イ どちらともいえない。	121名
	ウ コース別でないほうが良い。	10名

- ・習熟度別学習については、肯定的な意見が多い。
- ・人数が少ないことで、発表する機会が増えた、気軽に質問できると記述している生徒が多い。
- ・先生がていねいに教えてくれるので良い、と答えている生徒も多い。
- ・進み方が自分にあっているので良い、と答えている生徒も多い。

2. 今後の課題

<p>研究の方針について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究を通して「目指す生徒の姿」が分かるようにする。また、さらに、生徒の実態把握に努める。 ・研究の成果の検討や学力向上の把握について、客観的データによる裏づけ等を明確にする。また、有効性について計画的にチェックすることが必要である。 <p>数学科の取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中連携の具体的な視点や方法を吟味する。 ・2学期から1,2年生を2学級3コースにしたが、教師のやりくりが非常に煩雑。 ・生徒の希望にしているため、コース選択が不適切と思われる場合がある。 ・考査の結果、下位生徒への十分な指導が必要であることがわかる。
--

学力把握のための学校としての取組

<ul style="list-style-type: none"> ・全学年において、5教科（国語、数学、社会、理科、英語）についての観点別到達度学力検査を実施（4月11日）。 ・数学科における習熟度別少人数指導実施にあたっての生徒の意識、効果等について質問紙調査の実施（7月、2月（予定））。 ・1学期と2学期の各教科の評定及び観点別学習状況の比較。
--

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

<ul style="list-style-type: none"> ・仙台市教育センターの学習指導訪問において、近隣小中学校及び市内フロンティアスクールからの参加を募った。 ・「研究集録」として、仙台市内の小中学校に研究のまとめを配布。 ・学校webページに「フロンティアスクール」の項目を追加し、整備する。
--

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 ■ 15年度からの新規校 □ 14年度からの継続校
- 【学校規模】
- | | |
|-----------|-----------|
| □ 3学級以下 | □ 4～6学級 |
| □ 7～9学級 | □ 10～12学級 |
| ■ 13～15学級 | □ 16学級以上 |
- 【指導体制】
- | | |
|---------|------------|
| ■ 少人数指導 | □ T・Tによる指導 |
| □ その他 | |
- 【研究教科】
- | | | | |
|--------|-------|------|---------|
| □ 国語 | □ 社会 | ■ 数学 | □ 理科 |
| □ 外国語 | □ 音楽 | □ 美術 | □ 技術・家庭 |
| □ 保健体育 | □ その他 | | |
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 ■ 有 □ 無